

# OfByForコラム 地域の 地域による 地域のための Something NEWS

## 第37回

### 久しぶりの北京・天津の訪問記(下)

#### ——天津を訪ねた理由と確認

一般社団法人 洸楓座  
一般社団法人 e f c o . j p

代表理事 佐藤建吉

#### ▼天津を訪ねた理由

短期間の北京訪問で得た中国の姿容についてコラム第35回(上)と第36回(中)では、視点を交えて報告した。本号コラム(下)では、もう一つの訪問地、天津での話題を報告したい。天津訪問の目的は、(上)の電子顕微鏡とも、(中)のアグリガーゲンとも異なり、それは第2次世界大戦中の日中間での出来事に関連する。その訪問目的は、過去の花岡事件という不幸な出来事について現地調査し、日中友好を祈願するためである。

#### ▼天津水上公園訪問

今回の天津訪問は、本コラムの丁度1年前、第12回(第82号)でも書いた秋田県大館市で起きた「花岡事件」である。この場合は、市民というよりは国民の、あるいは自国民と異国民の立場がその背景にあるといえる。

#### ▼在日殉難烈士・ 勞工記念館訪問

タクシーを走らせること25分くらいで同記念館に到着した。予めアポを取っていなかったが、李君に交渉してもらいパスポートを提示し入館できた。2人の館員に案内していただき、まず展示室2階に案内された。抗日烈士の記録や写真が展示されている。訪問者記帳簿に署名し、正面のモニメント(写真1)に合掌した。このフロアでは特に、花岡事件に関する資料を中心に勉強できる。

#### ▼秋田県大館市での 花岡事件慰霊祭

花岡事件について20年以上にわたり調査し、日中友好を図ることに尽力している石飛仁らは、事件発生日の7月1日に、毎年、大館市花岡の信正寺において慰霊行事を開催している。曹洞宗、信正寺は、事件発生前から中国人死亡者の遺骨を保管し供養していた。1991年には石飛らの活動によって、花岡事件で亡くなった中国人の遺骨が移転前の天津抗日殉難烈士記念館において発見された。

#### 写真1:花岡労働者モニュメント



北京市での宿泊が市内北部、昌平区の天通苑のホテルであったので、5で連続して200日先まで続いている。天津駅行の高鉄C2041(11時12分発)は、19番線からの出発であった。列車は「和諧号」で日本の新幹線と似ている。本コラム(上)で述べた胡錦濤政権のスピーカン「和諧社会」の体制づく

りには一致した愛称である。地下鉄5号線に乗り換え、その後14号線に乗り換えて北京南駅に到着した。天津に向かう高速鉄道(高鉄)は、この駅から出発する。北京には、北京駅のほか、東西南を冠した北京東駅、北京西駅、北京南駅があり、高速鉄道のターミナル駅になっている。地下鉄で着いた北京南駅は、巨大である。同行案内してくれた北京生まれの李君も迷うほどであった。チケットは事前に予約してあったが、出発前線を探すが大変である。航空機に乗ると同じで、荷物チェックを要し、その後エスカレーターで3階フロアに上った。乗車口が手前の1番から24番まで連続して200日先まで続いている。

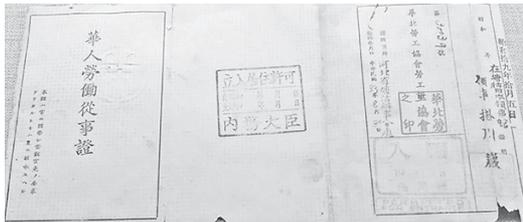


写真2:華人労働従事証の展示

事件後、警察と軍隊による追跡により捕えられ、拷問により419名が死亡した。結果として、4割を超える中国人労働者が死亡した。事件は、1945年7月1日に起こったのであるが、6月30日と誤認・記述されているものも多い。この記念館でも、事件の発生日は6月30日となっていた。今年、昨年に続いて、筆者も信正寺での慰霊行事に参加した。今年も419名の名前を記銘した紙コップに、蠟燭を燈明し冥福を祈った。なお、大館市は秋田犬「ハチ公」の出生地でもあり、話題の秋田犬との関わりで、中国人のインバウンド観光客も大勢訪れるので、花岡事件についても事実を述べ紹介する必要がある。

島野人」として紹介され知られていた。

筆者は、茨木のり子の長編詩『りゅうりえんれんの物語』を読み、劉について知ったが、天津の記念館における展示で、劉の苦勞や辛苦を確認できた。現在、茨木のり子の詩の朗読会を計画しているが、その行事で紹介したいと実感した。

花岡事件について20年以上にわたり調査し、日中友好を図ることに尽力している石飛仁らは、事件発生日の7月1日に、毎年、大館市花岡の信正寺において慰霊行事を開催している。曹洞宗、信正寺は、事件発生前から中国人死亡者の遺骨を保管し供養していた。1991年には石飛らの活動によって、花岡事件で亡くなった中国人の遺骨が移転前の天津抗日殉難烈士記念館において発見された。